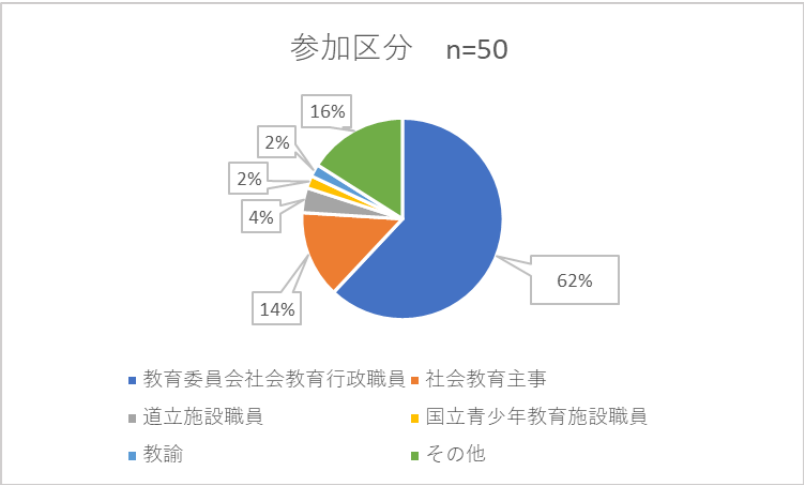


「【道南ブロック】北海道つながる学びコンファレンス」

主管：渡島教育局・渡島社会教育主事会

事業の内容

- 1 日 時 令和8年8月27日（木）
~28日（金）
- 2 場 所 七飯町文化センター
- 3 参加者 50 名
内訳 檜山管内 8名、渡島管内 23名
日高管内 10名、胆振管内 6名
その他 3名



I プログラム

日程

(1) 1日目

13:00	13:15	13:30	14:10	15:40	16:45	17:00	18:30
受付	開会 オリエンテーション	テーマ説明 ミニ講義	パネルトーク	トークセッション	情報 提供	移動	情報 交流会

(2) 2日目

9:00	9:15	12:00	12:10
受付	ワークショップ	座談会・講評	閉会 解散

【テーマ説明・ミニ講義】 「社会教育担当者に求められるつなぐ力」 【講師】 北海道立生涯学習推進センター 社会教育主事 松 本 大 和	【内容】 研究及びネットワーク事業の概要について理解を深めるとともに、社会教育人材として求められる力について考えた。そして、地域の多様な人や団体、関係機関等をつなぐことの重要性について学びを深めた。
【パネルトーク】 「地域のプレイヤーの本音を聞く」 【パネラー】 函館市地域交流まちづくりセンター センター長 仙 石 智 義 氏 道南サミット 代表 岡 本 啓 吾 氏 NPO 法人 nicon 代表理事 桑 原 さやか 氏	【内容】 地域のプレイヤーから、行政と民間それぞれの強みや連携の在り方について意見を聞いた。その中で、民間には、意思決定や取組の展開が早く、柔軟なアイデアを生かして地域のニーズに対応できる強みがあることを確認した。また、行政と民間が互いの強みを生かし、対等な立場で連携することが重要であることや、社会教育士の役割を明確にすることの必要性を確認した。そして、社会教育士の実践事例を共有することが、新たなネットワークの構築や連携を広げていく上で大切なポイントであることを学んだ。

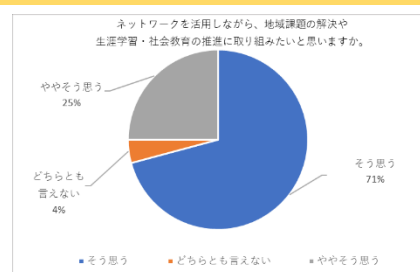
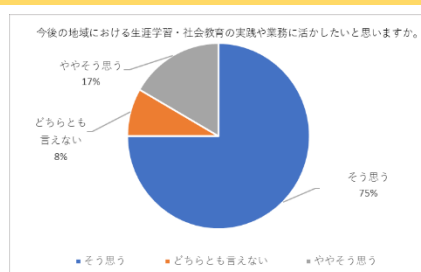
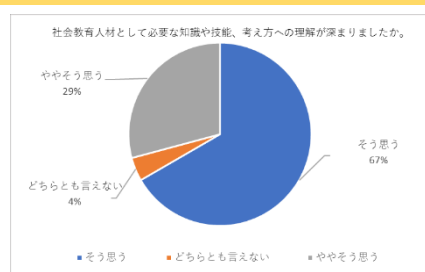
【トークセッション】 「わたしの壁、お悩み交流トーク」	【内容】 それぞれの立場や地域で抱える課題を共有するとともに、他者の実践や考え方に触れることで、自身の取組を見直すきっかけや、新たな視点を獲得する機会となった。
【進行】 渡島社会教育主事会	
【ワークショップ】 「伝わる！動かす！言葉がけ！」	【内容】 地域のプレイヤーの「ワクワク」を引き出し、同じ方向に進むためには、相手の立場や思いを踏まえて言葉やアプローチを工夫することが重要であることを学んだ。 グループワークでは、お題とターゲットを設定し、参加者同士で意見を出し合うことで、相手に応じた伝え方や関わり方について理解を深めることにつながった。
【運営】 渡島社会教育主事会、教育局社会教育指導班	
【おきがる座談会・講評】	【内容】 これまでの登壇者の取組や経験をもとに、研修で出てきた課題等について座談会形式で意見交流を行い、具体的な実践事例を通して、今後のネットワーク構築を進める上での新たな気付きを得ることができた。
【登壇者】 各管内社会教育主事会代表者 北海道立生涯学習推進センター	

Ⅱ 全体を通して

地域の人や関係機関を「なんとなくつなぐ」のではなく、誰と、何のためにつながり、どのような変化を生み出すのかを意識することの重要性を共有した。また、地域のプレイヤーとのつながり方を考える交流や、事業を進める上での「壁」をテーマとした意見交換など、それぞれの地域や参加者の実情を生かした取組が行ったことで今後の実践意欲の向上につながった。



Ⅲ 参加者の声



【今後の社会教育人材ネットワークに期待すること】

- ・ 様々な立場の社会教育人材が理想を語り合い、互いに共感し、同じ方向を向いて、町や人がよりよくなること。
- ・ 行政の社会教育主事だけでなく、地域にいる社会教育士の協力、行政にはないアイデアをもらいながら持続可能な取り組みをしていきたい。
- ・ 地域や所属を越えて、社会教育に係る悩みや課題を気軽に相談・共有できるネットワークになること。
- ・ 社会教育士リストのような情報が手に入ると連携しやすくなると思う。
- ・ 遠く離れた社会教育人材とネットワークを作りたい。

Ⅳ 今後に向けて

今回の学びや気付きをそれぞれの地域や所属における実践に生かし、地域の課題や人々の思いを踏まえた事業づくりにつなげていくことが重要である。具体的には、地域の人材や関係団体の情報を整理し、新たな担い手への声かけや既存の取組との連携を進めるとともに、事業の企画段階から地域の声を取り入れていくことが考えられる。

また、実践後には成果や課題を振り返り、次の取組の改善につなげることで、「なんとなくつなぐ・つながる」から「意図をもってつなぐ・つながる」への1UPを、日々の社会教育実践の中で進めていくことが期待される。そして、つながった先にどんな地域の姿を描くのかを考え、社会教育の可能性を生み出していければと思う。